

学校目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



ま い た

令和元年度

7月号

令和元年6月29日

<http://www.educity.yokohama.jp/sch/es/maita/>

「想い」に気づく子どもたちに

副校長 猪俣 宗哉

梅雨明けまでにはもう少し時間がかかりそうですが、梅雨雲の間に垣間見る日差しの強さに、本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。6月には2・3年生の校外学習、4年生の防災教室、5年生の田植えや赤城宿泊体験学習、6年生の劇団四季の劇団員による美しい日本語教室、そして全校での交通安全教室など、多くの体験的な活動がありました。子どもたちの「生きる力」をはぐくむために、蒔田小学校では体験的な学びを大切に、様々な教科と関連させて教育課程の中に位置付けています。子どもたちの様子を見てみると、体験を学びに変え、一つひとつ実践していこうとする姿が見られます。

そんな素直な蒔田っ子たちですが、昨年度から一つ気になっていることがあります。それは、持ち主の現れない落とし物が非常に多いことです。筆記用具や衣類、手作りの袋、カバンなど年度末には三つのカゴが一杯になる程の落とし物がありました。それを見るたびに思い出していたことがあります。十数年前、青年海外協力隊員として、南アジアの国にある、小さな村の現地小学校で指導をしていたときのこと。そこに通っていた3年生の男の子は学校が大好きで、毎日元気よく手を挙げて発表する子でしたが、突然学校に来なくなりました。1か月程経ったある日、隣町のお茶屋さんで働くその子と偶然出会いました。事情を聴いてみると、2か月後に入学する弟の制服とカバンを買うために、毎日朝の4時から夜の8時まで働いているとのことでした。その子はこう言いました。「学校に行けないのは寂しい。でもね先生、弟のためだと思ったら朝起きるのだってつらくないんだよ。」家族を思いやり、自ら行動する彼の姿に強く心を打たれました。それから数か月のこと。「先生おはよう。」元気の良い挨拶に振り向くと、あの男の子が立っていました。隣には、真新しい制服を着て、カバンを大事そうに抱えながらお兄ちゃんと手を繋ぐ小さな弟の姿がありました。

「物」そして人の行動には、様々な思いが込められています。しかしその込められた「想い」は、目には見えません。そういった、目に見えないものに気づき、受け止め、大切にできる子どもたちに育てたい。そう強く考えています。

さて、昨年度よりまちとともに歩む学校づくり懇話会等で検討してまいりました「学援隊」ですが、名称を「蒔田っ子学援隊」と改め、再組織することとなりました。蒔田連合町内会、堀ノ内睦町連合町内会のご協力をいただき、7月より活動を開始いたします。児童がより安心して登下校ができるように、黄緑色のベストを着て通学路に立ち、見守り活動を行っていただきます。ここにも「想い」をもって活動して下さる方々がいます。蒔田っ子学援隊の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

